

グローバル社会を考える I

更新日：2023/10/24 14:38:20

| | | | | | | | |
|------|-----------------------|------------------|-------|-------|-------|-------|--|
| 開講年度 | 2024 | 学期 | 前期 | 科目コード | Z0011 | 授業コード | |
| 担当教員 | 橋本 学 | | | | | | |
| 備考 | 履修区分：選択 アクティブラーニング | | | | | | |
| 配当 | 学部/学科 | 広島国際大学 看護学部 看護学科 | | | | | |
| | 配当時期 | 2年 | 曜日/時限 | — | 単位 | 1 | |
| | 備考(配当) | | | | | | |

授業の目的・ねらい

「オンデマンド授業」〈使用ソフト等：担当者のブログ「x-manaby-8」(Ameba) 記事にYouTubeへのリンクを張り、授業動画「国際協力論」を視聴して頂く〉

※なお、担当者のブログ「x-manaby-8」(Ameba) へは、CoursePower内の「授業紹介」に格納している

資料(1)のQRコードをスマホで読み取るか、あるいは、資料(2)「「まなびいブログ」入り口」をクリック（→スマホ画面ならばタップ）して頂ければ、入ることができます。

※また、a) 授業動画の中で用いる各種資料、並びに、b)各回の板書記録（静止画）は、動画公開時には、CoursePowerの授業ホルダに格納しておきますので、事前にダウンロード（orプリントアウト）するなどして、有効に活用されることを希望します。

1. なぜ「アジア・アフリカ地域」なのか～欧米諸国に翻弄され続けてきた“迷子たち”

アジアが存在するユーラシア大陸とアフリカ大陸とは陸続きだが、地政学的にはアジアとアフリカは別の地域＝州として区分され、住む民族も違えば文化も異なるため、現実にはそれぞれ別個のものとして論じられることが多い。しかし、アジアとアフリカは実は様々な点で共通点を持っている。例えば、背景としての歴史がそれであり、今日的には政治や社会情勢における混迷、あるいは経済的困窮実という問題も共有している。

2. いわゆる「アジア・アフリカ問題」研究の発端

担当者がここで指し示そうとしている視点は、なにも新しいものではない。第二次世界大戦の終結（1945年）後、かつて“列強諸国”の植民地支配を強いられてきた“第三世界”では、独立国家の誕生が相次いだ。だが、そうした新生国家の多くは、統治経験の不在を原因に、政治的不安定や財政不安、民族的・宗教的対立が続ぎ、結局、旧“宗主国”＝旧支配国やその他先進諸国の支援や政治介入に頼らざるを得ず、従って十分な自立を果たし得ない事態に陥った。1960年代以降、いわゆる「アジア・アフリカ問題」が注目され始めた背景がこれである。

3. 「アジア・アフリカ問題」研究の今日的意義

さて、21世紀を迎え、“アジア・アフリカ地域”では従来の“少数派による強権政治”への反発も活発化しつつある。ただ、国家の立て直しには、やはり先進諸国による「国際協力」が不可欠であろう。だが、世界的不況を前に、欧米諸国の支援にも限界の兆しが見えつつある。従って、“アジア・アフリカ地域”には、これまで以上に自助努力が求められる。でなければ、世界は“共倒れ”現象の発生を避けることができないと予測されるからである。今や「アジア・アフリカ問題」とは、決して“遠い世界の問題”ではなく、自らの“死活”にもかかわる問題だとの認識を持つ必要がある。

4. 本講義の展開～シナリオ～

まず、(1)“アジア”や“アフリカ”の地域的枠組みを確認し、(2)地域としての“アジア”“アフリカ”が、どのような歴史のプロセスを経て形成されたのかを認識した上で、(3)開発途上国を多く持つ“アジア・アフリカ地域”が抱える様々な問題を構造的に理解する。さらに、(4)“アジア・アフリカ地域”を含む国際的共存を図る上で一体どのような姿勢を備えるべきかを考察する。担当者としては、こうしたプロセスを通じて、「国際協力」の対象たる“アジア・アフリカ地域”について、各対象国の社会的構造とジレンマ、「国際協力」国側の「協力」理念と「開発」対象国側の期待値とのギャップを認識し、問題意識の醸成を図るとともに、あるべき「国際協力」像について考えることのできる姿勢を培って頂きたい、と考えている。

到達目標

| | |
|---|--|
| 1 | (1)“アジア”や“アフリカ”の地域的枠組みについて、概要を説明することができる。 |
| 2 | (2)地域としての“アジア”“アフリカ”が、どのような歴史のプロセスを経て形成されたのか、その概要を説明することができる。 |
| 3 | (3)開発途上国の多い“アジア・アフリカ地域”が抱えている様々な問題につて、構造的に理解することができるようになる。 |
| 4 | (4)“アジア・アフリカ地域”を含む国際的共存を図る上で一体どのような姿勢を備えるべきかを、自ら考察することができるようになる。 |
| 5 | (5)様々な現実の問題を踏まえて、自ら問題意識の醸成し、あるべき「国際協力」像について考察することができるようになる。 |

評価基準

| 到達目標 | 評価方法 | 評価の比率 | フィードバック方法 |
|------|-------------------------|-------|-------------------------|
| 1 | 授業後に提出するミニツツペーパー | 15% | Course Power（希望者にはメールで） |
| 2 | 授業後に提出するミニツツペーパー | 15% | Course Power（希望者にはメールで） |
| 3 | 授業後に提出するミニツツペーパー、期末レポート | 20% | Course Power（希望者にはメールで） |
| 4 | 期末レポート | 25% | Course Power（希望者にはメールで） |
| 5 | 期末レポート | 25% | Course Power（希望者にはメールで） |

教育課程内の位置づけ

具体的な科目を特定することは困難だが、本科目の学修は、各学科の専門過程で開講されている各科目のグローバル的視点に立った学修内容（国際比較や国際支援等）を理解する上での基盤形成に繋がる。

ディプロマ・ポリシーとの関連

注：2020年度以降の学則適用者用のディプロマ・ポリシーとの関連を記載しています。2019年度以前の学則適用者は、項目順や表現が異なりますので注意してください。

| ディプロマポリシー | 割合 | 科目での能力 |
|--|-----|---------|
| DP1. 命の尊さを理解し、ひとを思いやる豊かな人間性を持つ。 | 20% | 人間力 |
| DP2. 地域の多様な価値観を理解し、様々な人々とコミュニケーションを図ることができる。 | 20% | 協働力 |
| DP3. 専門的な知識や技術を身につけ、社会で活かすことができる。 | 0% | |
| DP4. 自ら問題を発見し、他者と協力しながら問題を解決できる。 | 20% | 協働力 |
| DP5. 生涯にわたり主体的に学び続け、新しい時代を創造できる。 | 40% | 自立的学修能力 |

アクティブラーニング要素

| PBL (問題解決型学習) | 反転授業 | ディスカッション/ディベート | グループワーク | プレゼンテーション | 実習フィールドワーク | ICT活用双方向授業(LMSやクリッカーの利用) | オープンエデュケーション(自施設または他施設で開発された教材の利用) |
|---------------|------|----------------|---------|-----------|------------|--------------------------|------------------------------------|
| ○ | ○ | | | | | | |

授業の流れ

| | |
|---|--|
| 1 | <p>第1回 “アジア・アフリカ問題”への招待 ～今日の動向と問題提起</p> <p>1)“アジア・アフリカ問題”研究の発端 2)“アジア・アフリカ”の現状と共通点 (反転教材・予習教材の提示)</p> <p>準備学修：中学の社会科教科書（地理的分野）や高校の地理系科目（地理A・地理B）の教科書、資料集、地図帳（※公民系科目の教材も参考になる）、各種ニュース報道により今日の“アジア・アフリカ”情勢を確認しておくこと。 予習：45分</p> <p>事後学修：授業内容を振り返り、ノートに要点を整理し、疑問点などを書き留めるなどして、次回の授業に備える。 復習：45分</p> |
| 2 | <p>第2回 “アジア・アフリカ地域”の枠組み ～地政学的検証</p> <p>1)“アジア・アフリカ地域”の全容 (反転教材・予習教材の提示)</p> <p>準備学修：第1回の授業内容（導入的解説：本講義の目的と方針、並びに作業）で気づいたことを踏まえ、改めて地図帳等で“アジア・アフリカ地域”の地理的特徴（陸地と海域、河川・湖沼、各国の主要都市等）を確認しておくこと。 予習：45分</p> <p>事後学修：授業内容を振り返り、ノートに要点を整理し、疑問点などを書き留めるなどして、次回の授業に備える。 復習：45分</p> |
| 3 | <p>第3回 同上</p> <p>2)“アジア・アフリカ”の地域区分 (反転教材・予習教材の提示)</p> <p>準備学修：第2回の授業内容（“アジア・アフリカ地域”の全世界における位置づけと範囲）を整理した上で、例えば“アジア”には、いくつかの国家をひと纏まりとする地域的枠組みが存在することを、ニュースなどで確認してみよう。 予習：45分</p> <p>事後学修：授業内容を振り返り、ノートに要点を整理し、疑問点などを書き留めるなどして、次回の授業に備える。 復習：45分</p> |
| 4 | <p>第4回 開発途上国の歴史と現状 ～アジア・アフリカ諸国を例として</p> <p>1)先進国と開発途上国 (反転教材・予習教材の提示)</p> <p>準備学修：第3回の授業内容（“アジア・アフリカ地域”における域内地域区分と区分背景：地理的・地勢学的）を整理した上で、“アジア・アフリカ地域”が例えば国際連合・先進諸国によりどのように評価されているか考えてみよう。 予習：45分</p> <p>事後学修：授業内容を振り返り、ノートに要点を整理し、疑問点などを書き留めるなどして、次回の授業に備える。 復習：45分</p> |

| | |
|-----------|---|
| <p>5</p> | <p>第5回 同上 2)開発途上国の歴史的背景 (反転教材・予習教材の提示)</p> <p>準備学修：第4回の授業内容（先進国と開発途上国の区別と根拠：経済的指標が基準となってきた経緯、両者へのイメージ的格差）を整理した上で、世界の国家が先進国と開発途上国のいずれに分類されているかを調べてみよう。 予習：45分</p> <p>事後学修：授業内容を振り返り、ノートに要点を整理し、疑問点などを書き留めるなどして、次回の授業に備える。 復習：45分</p> |
| <p>6</p> | <p>第6回 同上 3)域内格差～統計データによる検証 (反転教材・予習教材の提示)</p> <p>準備学修：第5回の授業内容（「開発途上国」発生の歴史的背景：「先進国」＝“先を進む国”の一方で、「後進国」＝“後れて進む国”が生まれた歴史的原因）を整理した上で、自らが関心を抱く開発途上国の歴史を調べてみよう。 予習：45分</p> <p>事後学修：授業内容を振り返り、ノートに要点を整理し、疑問点などを書き留めるなどして、次回の授業に備える。 復習：45分</p> |
| <p>7</p> | <p>第7回 同上 4)貧困諸国における国内格差と原因 (反転教材・予習教材の提示)</p> <p>準備学修：第6回の授業内容（世界銀行の集約データに基づく先進国と開発途上国の区分基準、地域別経済的特徴の検証：“アジア”“アフリカ”の地域内にも格差が存在する事実の確認）を整理した上で、その原因を考えてみよう。 予習：45分</p> <p>事後学修：授業内容を振り返り、ノートに要点を整理し、疑問点などを書き留めるなどして、次回の授業に備える。 復習：45分</p> |
| <p>8</p> | <p>第8回 同上 5)食糧問題の構造 (反転教材・予習教材の提示)</p> <p>準備学修：第7回の授業内容（貧困な国家における地域的経済格差、富裕層と貧困層の並存⇒地理的・地勢的原因）を整理した上で、自らが関心を抱く特定国家についてそうした事実の存在を、ネット等を活用して検証してみよう。 予習：45分</p> <p>事後学修：授業内容を振り返り、ノートに要点を整理し、疑問点などを書き留めるなどして、次回の授業に備える。 復習：45分</p> |
| <p>9</p> | <p>第9回 同上 6)様々な国内問題～民族・宗教と人権 (反転教材・予習教材の提示)</p> <p>準備学修：第8回の授業内容（食糧問題の構造：社会発展を背景とする農業構造の変化⇒自給を基本とする穀物生産から利益追求型の商品作物生産への移行等）を整理した上で、食糧問題の深刻化現象を具体的に調べてみよう。 予習：45分</p> <p>事後学修：授業内容を振り返り、ノートに要点を整理し、疑問点などを書き留めるなどして、次回の授業に備える。 復習：45分</p> |
| <p>10</p> | <p>第10回 “アジア・アフリカ問題”の具体事例 ～錯綜する諸問題 1)経済不安と出稼ぎ、そして人身売買 (反転教材・予習教材の提示)</p> <p>準備学修：第9回の授業内容（各国・各域に存在する民族・宗教・人種をめぐる諸問題：民族・宗教等の違いが経済格差ともなっているなど）を整理した上で、例えば“アジア・アフリカ”地域に存在する民族・宗教問題を調べてみよう。 予習：45分</p> <p>事後学修：授業内容を振り返り、ノートに要点を整理し、疑問点などを書き留めるなどして、次回の授業に備える。 復習：45分</p> |
| <p>11</p> | <p>第11回 同上 2)民族・宗教対立と難民問題 (反転教材・予習教材の提示)</p> <p>準備学修：第10回の授業内容（貧困国家・地域における経済不安を背景に、貧困層を中心に国外への出稼ぎ、人身売買の犠牲となる少女が後を絶たない事実）を整理した上で、授業時に参照（配布）の資料を精読し、問題構造を考えてみよう。 予習：45分</p> <p>事後学修：授業内容を振り返り、ノートに要点を整理し、疑問点などを書き留めるなどして、次回の授業に備える。 復習：45分</p> |

| | |
|-----------|---|
| <p>12</p> | <p>第12回 同上 3)政治不安・派閥抗争に翻弄される国民 (反転教材・予習教材の提示)</p> <p>準備学修：第11回の授業内容（民族間・宗教間対立により増え続ける国外難民：難民の生活状況と様々な苦悩）について整理した上で、授業時に参照（配布）した資料への印象を纏めてみよう。 予習：45分</p> <p>事後学修：授業内容を振り返り、ノートに要点を整理し、疑問点などを書き留めるなどして、次回の授業に備える。 復習：45分</p> |
| <p>13</p> | <p>第13回 “アジア・アフリカ問題”の本質と構造 ～新たな指標に基づくアプローチ 1)経済的指標に基づく検証の限界 2)何が地域発展の阻害要因なのか？ (反転教材・予習教材の提示)</p> <p>準備学修：第12回の授業内容（民族間・宗教間対立による国内避難民の都市スラムへの沈殿：貧困層が強いられている生活実情）について整理し、授業時に参照（配布）した資料への印象を纏めてみよう。 予習：45分</p> <p>事後学修：授業内容を振り返り、ノートに要点を整理し、疑問点などを書き留めるなどして、次回の授業に備える。 復習：45分</p> |
| <p>14</p> | <p>第14回 同上 3)「人間開発指数」の背景と特質 4)「人間開発指数」による新たな分析 (反転教材・予習教材の提示)</p> <p>準備学修：第13回の授業内容（「開発途上国」が抱える課題は必ずしも経済的指標のみで説明できるものでなく、経済支援だけでは解決困難：貧困原因の複層性）を整理した上で、「人間開発指数」とは何かを調べてみよう。 予習：45分</p> <p>事後学修：授業内容を振り返り、ノートに要点を整理し、疑問点などを書き留めるなどして、次回の授業に備える。 復習：45分</p> |
| <p>15</p> | <p>第15回 求められる「国際協力」像 1)「協力」が成立する条件とは？ 2)「地域開発」の前提とは？ (反転教材・考察教材の提示)</p> <p>準備学修：第14回の授業で取り上げた「人間開発指数」の意義を整理した上で、各人が関心を抱く具体的な開発途上国と、その国を対象に実施されている「国際協力」の実情、また「協力」している組織・団体について調べてみよう。 予習：60分</p> <p>事後学修：これまでの授業内容を振り返り、必要に応じて資料を収集するなど、期末レポート作成の準備をする。※なお、本項に関する限り、事後学習の所要時間は最低値と認識頂きたい。 復習：120分</p> |

教科書・参考図書

◎教科書は特に定めない。 ※必要資料はCourse Powerに格納する形で随時配布する。

履修要件

他学部他学科からの履修「可」。

実務経験のある教員による授業科目